

チャールズ・バーンスタイン

実験リスト

訳・湊圭史 (「言語実験工房」<http://www2.ocn.ne.jp/~etude/el/f/index.html>)

1. 同一言語内翻訳

詩作品 (まずは他人の、それから自分自身のもの) をとり上げ、一語、一句、一行ずつの単位に従ってことばを入れ替え、「英語から英語に」[訳者注: 同じ言語に、つまり、日本語から日本語に、も可]翻訳する。あるいは、厳密な逐語訳ではなく、各句や各文に対応した形で「自由」訳を試みてもよい。同じ詩を別の文体や異なった語調 (例えばスラングや俗語調) を用いて翻訳してみる。一つの原詩から幾つもの違ったタイプの文体・調子に同一言語内翻訳を試みる。(Cf. Six Fillious by bp nichol, Steve McCaffery, Robert Fillious, George Brecht, Dick Higgins, Dieter Roth, which also included translation of the poem to French and German)

連鎖型: 上の実験をグループで試みる。一つの詩を「翻訳」しつつ参加者から参加者へと受け渡し、最初の書き手に戻るまで回していく。(See David Nemeth's version.) See bpNichol, Translating Translating Apollinaire.

2. 様々な声の演じ分け——ダイアレクト (ある集団・地域のみが用る言語) と個人言語

詩作品またはその他の言語作品を別のダイアレクトか個人言語 (自分のものでもそれ以外でもよい) に翻訳するか構成し直す。ダイアレクトはサブカル的言い回しやスラング、速記法で書かれた文書なども含むこととする。例: スティーヴ・マキャフリーによる『共産党宣言』のヨークシャーのウェストライディング地区の方言訳(ウェブサイト PennSound に、音声とテキストあり)。 See also Nathan Kageyam's translation of Pound's "The Return" into pidgin (Hawaiian Creole English). あるいは、ダイアレクト変換エンジンを using、一つのテキストを選んだ「ダイアレクト」に翻訳し、詩を書く材料とする。

「訳注・“He Do the Police in Voices”は「様々な声を演じわけ」ぐらいの意味。原典はチャールズ・ディケンズの『われらが共通の友 Our Mutual Friend』。作中の人物スロップビーが様々な調子で警察のニュースを読んでみせる。T. S. エリオットは後に『荒地 The Waste Land』と題される)となる執筆中の詩を、“He Do the Police in Different Voices”と呼ぶべきだ。」

3. 同音翻訳

発音はできるが完全には理解できない外国語による詩作品をとり上げて、詩の音に従って英語に翻訳する(例えば、フランス語の "blanc" を "blank" に、"toute" を tout に。[訳注：意味が違っても構わず、音にこだわって移す(2)])。Some examples: Louis and Celia Zukofsky's Catullus., David Melnick's Homer at Eclipse: Men in Aida -- part one and part two; Ron Silliman on homophonic translation (his own, Melnick's, and Chris Tysh's), and some examples by Charles Bernstein -- from Basque, from Portuguese and "Johnny Cake Hollow" suite. — その後書を直す。

[訳注・ヨーロッパ語族同士など近い種の言語でないとは難しい。日本語で試みるならば韓国語作品からか。]

4. 辞書による翻訳

発音はできるが完全には理解できない外国語の詩をとり上げて、二言語辞書[訳注：英和辞典など]を用いて逐語訳を試みる。(その後書き直す?) ウェブサイト "Language Is a Virus" に多言語翻訳エンジンが用意されている。

5. 「1〜4のアレンジ及びウェブ上の翻訳サイトの利用」

上の4つの翻訳を用いた手法をアレンジして、"Lost in Translation"、"Babel"、"Babelfish"、Free Translation.com や Logopoeia's Shortwave Radio Engine などの翻訳エンジンやサイトをを用いて試してみる。

[訳注・翻訳サイトはどこを使ってもよいし、翻訳ソフトでも可。]

6. 「複数人による翻訳」

一つの詩の複数の翻訳をグループで、あるいは一人で試みる。ウェブサイト PennSound 掲載の Caroline Bergvall によるダンテ『神曲』オープニングの複数の翻訳からなる詩を参照。

7. 聞き間違い

歌の歌詞、決まり文句、耳にした会話、ニュースのヘッドライン、レストラン・メニューなど、それも聞き間違えたもののみを集めて一篇の詩を作る。例：Kenneth Goldsmith, "Head Citations"

8. アクロスティック（各行頭、行末、行中の文字を綴ると語になる詩）的な偶然
ランダムに本を選んで、そのタイトルをアクロスティックに使うキーフレーズとする。そのキーフレーズの各文字ごと（a）に、本の中のそれと対応するページ（b）の場合、1. ページ、2. が26ページとして）、そのページにあるその文字から始まる語からそれが入った行か文の最後までを抜き出して、詩の一文とする。これをキーフレーズの全ての文字に行って第一連とし、一行分けを挟んで別の本から同じ作業を繰り返して、第二連、第三連と詩を作っていく。（Cf.: Jackson Mac Low's Stanzas for Iris Lezak.）ヴァリエーションとしては、本の作者の名前をキーフレーズにしたり、自分の名前や友人の名前を用いたり、異なったジャンルからの本を意識して選んだり、アクロスティックを作る別の手段を試すことなどが考えられる。ウェブ上の Mac Low diastic engine を用いてもよい。

【訳注・アクロスティックの例、

あいずをおくる

いきなりなぐる

しんじやあだめと

てのりばんだと

るびーをあげる

—

9. トリスタン・ツアアの帽子

グループの全員がそれぞれ一語（あるいは一句、一行）ずつを紙に書き、帽子の中に入れる。でたために引き出して、出た順番そのままに並べて詩とする。（ひとりでする場合、本や新聞、雑誌から、言葉や行を抜き出して帽子の中に入れて行う。）

10. バロウズの「折り込み(fold-in)」

新聞・雑誌記事のページを複数枚用意し、各ページを縦に「訳注：縦書きなら横に」半分に切る。元とは違うページ同士を貼り合わせる（Cf.: William Burroughs's The Third Mind.）パソコンで Lazarus cut-up engine を用いると同様のことが自動に行える。他にも、
"Language Is a Virus:" Cut Up Machine, Slice-n-Dice, Exquisite Cadavulator, & God's Rude Wireless` Ron Starr's travesty engine などがある。

11. 一般的な「切り合わせ(cut-ups)」

既存の情報ソースから拾った言葉のみを構成して詩をつくる。同じ情報ソースを一つの詩に、次いで幾つかの詩に用いてみる。さまざまな種類のソースを試すこと。文学、歴史、

雑誌、広告、マニュアル、辞書、手引書、紀行文、などなど。上の項目にある cut-up エンジンを参照。

1 2. 寄せ集め詩文

元ネタとなる詩を幾つか選び、その中の行を抜き出しコラージュする。

〔訳注・一行の中身は変えないこと。〕

1 3. 直列文

様々な本やその他の情報ソースから一文ずつを選び出す。自分で作った文も加える。それを合わせて一つのパラグラフにし、一番興味深い結果が得られるまで順列組み換えを行う。

1 4. 置き換え法 (1) —— 「狂った胸骨」

詩作品（他ジャンルのテキストでも可）を用意し、各行の3〜4語を品詞の種類を記録して空白とする。元の文脈を思い起こさないように、品詞の指定に従って空白を埋める。

1 5. 置き換え法 (2) —— 「7アップ・オア・ダウン」

よく知られた詩作品（他ジャンルのテキストでも可）をとり上げ、すべての名詞、形容詞、副詞、動詞を同じ品詞の他の語で置き換える。置き換えるのに用いる語は辞書で元の語を調べ、7項目上（か下）にある語を使う（品詞が合わないなど不適切な場合は、適切な言葉に当たるまで8項目上（か下）、9項目上（か下）と一つずつ調べていくことを選ぶ）。(Cf.: Lee Ann Brown's "Pledge" & Michael Magee's "Pledge" (go to p.37 of pdf of Morning Constitutional) or Clark Coolidge and Larry Fagin, On the Punice of Morons; or Bernadette Mayer's "Before Sextet".

〔訳注：前置詞などの機能語は変えない。日本語でやる場合は、助詞、助動詞などは残す。〕

1 6. Substitution (3) —— 発見と置き換え

元テキストの中のある一語を選び、テキスト中のその語をすべて別の語かフレーズで置き換える。この操作を同じ元テキストを使って、入れ替え語のフレーズがどんどん長くなるようにして続けていく。

17. アルファベット詩

26語からなる詩を、各語の頭がアルファベット順になるようにして書く。もう一篇はアルファベット順をごちゃまぜにして書く。

〔訳注・日本語だと「あいいうえお」か。他の既存の音の配列でも可。〕

18. 頭韻

すべての単語が同じ文字から始まるような詩を書く。

19. 組み替え(1)

詩を一篇書き、真ん中辺りで半分に切り、それから元の後半が前に、前半が後ろになるように組み替える。

20. 組み替え(2)——倍加

第1パラグラフを一文で始め、各パラグラフの文の数が2倍になっていくように書く。各パラグラフは前のパラグラフで使われた言葉をすべて含んでいること。(Cf. Ron Silliman's *Ketjak*)

21. 協同創作

二人かそれ以上の人数で、教語、教行、教連交替で書いていく(連鎖あるいはレンガ〔連歌〕)。同時に書いたり、コラーージュしたり、書き直したり、編集したり、前につくったヴァージョンに書き足してみたり様々なことを試す。実際に会って、メールで、郵便を使つてと、どういふやり方でも可能である。

22. 集団ソネット

14人がそれぞれ10語(別の数も可)からなる一行詩を索引カードに書く。面白くなるように並べ替える。あるいは、ひとりひとりが、前に書かれた行を読んだあと、一行ずつ付け加えていつて詩を作る。いろいろなかたちで、人数も自由に変えて試すこと。

23. シュルレアリスト風共同言語イベント(I)(二人以上用)

一人が他に見せないように質問を一つ書き出す。それとまったく同時に、別の一人が答え

を書く。ついでに書かれる幾つものQ&Aを並べて詩とする。別のかたち——一つの質問に、幾つもの答えを用意する。あるいは、幾つもの質問に一つの答えが可。For example: "What is the pink elephant? The reason why it is so cold this week // Is the door locked? / I have been faithful to thee, Cynaral in my fashion." (Cf: Robert Desnos's "Language Events.") (Cf: Robert Desnos's "Language Events.")

24. シュルレアリスト風共同言語イベント (II) (二人以上用)

一人が他に見せないようにげや when で始まる節[訳注: 日本語であれば「ならば」や「よき」で終わる節]を書き、一人目はそれを見ないで、仮定法か未来時制で後に続く節を書く[訳注: 日本語ではあまり法や時制は気にしなくてよいだろう]。For example: "When candlelight proves disastrous for performing an appendectomy / Peacocks and crocodiles would dance on the Nile at noon. // If Homer's brother is cannibalized in the forum by the barbarians / A puppy dog would go to lasco. // If Marx was born in Boise /Then the world would eat nothing but purple-colored ice cream."

25. 「空白」

この実験は意図的に空白にしてある。

26. 修正版「優雅なる死体」

グループで、ひとりにつき一行ずつ書き、紙を折って見えないようにして、次のメンバーに回していく。

[訳注・「優雅なる死体 cadavre exquis」はフランスの初期シュルレアリスト達の実験。]

27. 「自動筆記」

書きながら考えていることを出来る限り忠実に書いていって詩にする。編集して内容を削ったりしないこと。何を言おうか計画することなく、できるだけ素早く書いていく。

28. 自動操縦士

できるかぎり何を書いているかを考えないようにつとめながら、構文、文法、話の筋や論理を編集したせず、できるだけ速く書く。これを1時間、2時間、3時間とできる限り長く続ける。何を書いたかを見直したり、周りを見たりしないこと。

29. 夢の仕事

30日間、毎朝いちばんに、その夜見た夢を書き取る。翻訳やカットアップなどの偶然性の操作をこの素材にほどこす。各々の夢の長さを二倍にする。足したり、変更したり、並べ替えたりして、複数の夢を一つの詩に織り込む。すべての言述を否定形にしたり、反対にしたりする。「私は丘をくだった」を「私は丘をのぼった」に、「私はしなかった」を「私はした」に。友人の夢を借りて、同じ操作を行う。

30. [新造語あるいはナンセンス]

全体が新造語あるいはナンセンスな語、単語の断片からなる詩。(Cf.: Lewis Carroll's "Jabberwocky", Khlebnikov's zaum, Schwitters "Ur Sonata," P. Inman's, Ocker, Platin and Uneven Development and David Melnick's Peet. (via Eclipse). Also: "Johnny Cake Hollow" suite. Neil Hennessy の JABBER: The Jabberwocky Engine を用いて語彙を生み出して使用する。Also see The International Dictionary of Neologisms.

31. [繰り返しと穴埋め]

全行が「私はかつて _____ だったが、いまでは _____ だ。」の空白を埋めた文からなる詩。("I used to write poems, but now I just do experiments"; "I used to make sense, but now I just make poems.")

32. [言いたいことのリスト]

あなたが両親、恋人、兄弟姉妹、子供、教師、ルームメイト、親友、市長、大統領、会社の重役などに言いたいと思っっているが決して言わないであろう言葉だけからなる詩を書く。

33. [聴衆を想像して]

同じ一つの文や連を、まるで静かに独り言でつぶやくように、小さくささやくように、親しい人に打ち明けるように、小集団に語りかけるように、大人数の前で話すように、と書き替える。

34. [耳にした会話]

耳にした他人の会話だけからなる詩。(See Kenneth Goldsmith's Soliloquy.)

35. 非文学的形式

索引、目次、便概、想像上のあるいは現実の製品の広告、などの形式で詩を書く。Nicolas Guillén & Tan Lin' "Index" (forthcoming), an instruction manual, a travel guide, a quiz or examination, etc.

36. 真似

好きな詩人、嫌いな詩人取り混ぜて12人をとり上げ、それぞれのスタイルを用いて一篇ずつ詩を書く。その作者の「知られていなかった」詩に贋作としてできるだけ近づけるように。

37. 「対象抜き」の詩

もの（対象）を出さないで詩を書く。

38. 「対象を一つに絞る」

一つの「もの」を対象にフォーカスして詩を書く。参照：ポンジュのオレンジについての詩。

〔訳注・谷川俊太郎の『定義』〕

39. 後ろ向きに

自分のあるいは他人の詩の行の順番を反対にする、あるいは変更する。次に、語順を反対にする。あるいは、ごちゃ混ぜにする。

40. 「代名詞なし」の自伝

代名詞を一切用いずに自伝的詩を書く。

41. 注意

一時間のあいだ、耳に入ってくることをすべて書き取る。

42. ブレイナードの記憶

すべての行が「私は覚えている」 "I remember ...;" で始まる詩。(Cf.: Joe Brainard's I Remember & audio from UBU) . ALSO: Brainard's: Imaginary Still Lives

43. 「ふん底」

自分が考えうる最悪の詩を書く。

44. 数える

一行・一文の単語数、一連・一パラグラフの行数、一篇に含まれる連・パラグラフの数などに、さまざまな数字のパターンを当てはめて詩を書く。文字数やシラブル(音節)数を使ってもよい。複雑な数列、シンプルな決まった数のパターンそれぞれで試してみる。

45. 「眠りに入る／から醒める瞬間」

眠りに落ちんとする瞬間に詩を書く。毎晩眠る瞬間、あるいは目覚めた瞬間に一行ずつ書いていく。

46. 「一時削除」

さらに研究を進めるために削除。

47. リスト詩(1)

長い時間かけて集めた好きな単語やフレーズからなる詩を書く。一つの本から好きな言葉を取り上げる。

「日本語の例・田中宏輔「Pooh on the Hill」 当サイト、言語実験工房に掲載」

48. リスト詩(2)

全体が「もの」のリストでできた詩。同種のもの、異種のもの、双方のリストでも試す。(一般的なリストをあげると、買い物リスト、やるべきことのリスト、花や石のリスト、色のリスト、在庫リスト、イベントのリスト、名前のリスト・・・)。

49. 時系列詩

現実あるいは想像上の関連した出来事が起こった日付のリストをこしらえる。

50. 筆記

友人との電話や生の会話を録音する。そこから書き取った言葉だけで詩を構成する。

51. キャンセル

すべての行が前の行を否定するように一行ずつを書いていく（私があなたの前に立つと／私はあなたの後ろに立っている）。

52. 抹消

自作の、あるいは他人の詩をとり上げて、ほとんどの言葉を抹消し、残りの言葉を書き直して自分の新しい詩とする。（Cf.: Ronald Johnson's RADI OS from Milton.)

53. 「1から10」

1語からなる詩から10語からなる詩まで、10篇を順番に書いていく。並べ替える。

54. 「質問のみ」

全体が質問だけで構成された詩。

55. 「指示のみ」

全体が指示だけで構成された詩。

56. 「第一行のみ」

オープニング・ライン（第一行）ばかりでできた詩（まず自分で考えたもので、次いで情報ソースを用いて）。

57. 「品詞の追加」

まず前置詞だけでできた詩、ついで前置詞とあともう1つの品詞でできた詩、さらにもう

1つ品詞を加えて（前置詞＋2つの品詞で）詩を書く。（Cf. Clark Coolidge's "Ofenth's").

58. [8つの品詞]

一行が8つの品詞をすべて使った8語からなる詩。

〔訳注・英語の8つの品詞・・・名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞、間投詞（冠詞を入れて9つの品詞とする場合も）〕

59. [1行X語]

1行が1語のみでできた詩を書き、1行が2語でできた詩を書き、1行が3語でできた詩を書く。

60. [20語]

20語を選ぶ。自分でつくったリストでも、すでにあつたリストでもよい。その20語のみを用いて、詩を3篇書く。

61. 同時性

書かれる出来事がすべて同時に起きる詩。

62. 非同時性

書かれるすべての事柄がべつべつの場所、べつべつの時に起こる詩。

63. 視覚詩

視覚性あるいは「具体性」が強い詩を、語彙的な要素とそれ以外（絵的）の要素の組み合わせを書く。アルファベットや字体、ページ上での文字の配置などで遊ぶこと。（See

UBWEB for many examples.)

64. 音楽を聴きながら

音楽を聴きながら詩の連を、あるいは詩を幾つか書く。音楽を変えながら一連、あるいは詩一篇を書いていく。

65. 削除

各文の後半を消す。

66. 言いわけのリスト

言いわけのみで出来た詩。

67. ほろ酔い日記

思考・経験・予想・期待の小さいものから大きなものまで複数のレヴェルを辿って、行き来するような日記を書く。(Cf. Hannah Weiner's *Clairvoyant Journal*.)

68. 「色の散歩」

街の一ブロック、あるいは田舎道を一マイル歩いて、出来る限りただ一つの色に注意を払う。この一色の見られるすべてのものをリストアップし、その色について書く。

69. 即興

誰かに詩のタイトルやトピックを示してもらう。それに応じてすぐさま詩を書く。これをすばやく連続して、各詩5分以内で書く。

70. 否定／反対

詩の中のフレーズや文をすべて否定形にする。あるいは元テキスト中の言葉を選んで、反意語に置き換える。「私はビーチに行った」を「私はオフィスに行った」、「私は立ち上がった」を「彼女は座った」、「私はやるつもりだ」を「私はしない」に、など。別のパターンとして、詩を一篇とり上げ、行やフレーズごとに内容を変えていく。反対の意味ではなく、ただ違った意味にする。

「日本語の例・荒木時彦「アレゴリー」(51)」。49. リスト詩(1)の手法と併用。」

71. グーグル詩

Leevi Lehto のエンジン (patterns の機能を使う) を用いて詩を構築する。Bill Luomo's Lizardo のエンジンでもよい(が今はウェブ上になく)。M. Silem Mohammad の *Deer*

Head Nation に基づく別パターン——グーグルの検索結果を元ネタとして詩に使用する。どれだけ削ってもいいが、何も付け加えないように。多くのヴァリエーションが可能である。See also: The Apostrophe Engine, the source for Apostrophe: The Book by Bill Kennedy and Darren Wershler-Henry. [N.B.:Mohammed は *Deer Head Nation* の製作者法を次のように説明している。「グーグルにキーワードやキーワードを入れて検索し、検索結果として出てきたテキストを直接に使う。私はテキストをマイクロソフト・ワードにペーストして、どンドン言葉を削って行って、結果が自分にとって面白くなるまでそれを続けた。それから丁寧に、慎重に言葉を絞り込んだ。」

「日本語の例・湊圭史「へ狂牛病 愛 音楽 雪 椅子 鳥」 当サイト、言語実験工房に掲載。検索結果として出た複数のページを用いている。」

72. フラーフ FLARF

この手法の拡張型はこのリストとは独立して開発され、「フラーフ」と呼ばれている。この実験リストのための独占リポート “The Flarf Files” に Michael Magree の解説がある。
 (“The Flarf Files” <http://epc.buffalo.edu/authors/bernstein/syllabi/readings/flarf.html>)

73. データ掘り起こし

前の二つの手法の発展型。ウェブ上のサーチエンジンやその他のデータ掘り起こし方法を用いて詩を書く。For example, Karri Kokko's Shadow Finlandia: An Extract (tr. Lehto): フィンランド語のブログにあった鬱々として、暗くて、陰気なコメントを断片としてコラージュしたもの。

74. 「グーグリズム」

グーグリズム検索エンジンを使って、ひとつの名前や言葉に基づいた詩を書く。
「訳注・グーグリズム [Google.com](http://www.google.com) 名前からウェブ上に記載されたその属性をまとめて表示する検索エンジン。 <http://www.google.com/>]

75. 多言語詩

数ヶ国語が単一の詩のなかで統合されているような詩。

76. 画像に添えて

インターネットや雑誌からいくつかの画像をとり上げて、それに添える詩を書く。

77. グラフィック・デザイン101. 1

始めは他人の、次に自作の詩をとり上げて、違ったフォントや違ったページのサイズを使いながら10個の異なったかたちに組み直す。ウェブページ版も作る。

78. 見かけの変更

詩作品（最初は他の人の、次に自作）をとり上げ、語順は変えないで行分けや見かけを変更する。これを五回行う。自由な配置と語数などをそろえた配置を両方行うこと。

79. ステイシー・ドリス作の実験

I. セックスについての詩を書く（あるいは、自分がすでに書いたセックスについての詩をとり上げる）。セックスに関する語彙を、戦争に関する語彙に置き換え、書き直す。

II. 愛についての詩を書く（あるいは、自分がすでに書いた愛についての詩をとり上げる）。恋愛に関する語彙を、政府に関する語彙に置き換え、書き直す。

III. 神と宗教についての詩を書く（あるいは、自分がすでに書いた神や宗教についての詩をとり上げる）。信仰や神に関する語彙を、その政策にあなたが反対である政治家に関する語彙に置き換え、書き直す。

80. 「リポグラム」

Christian Bök によるリポグラム *Eunoia* はひとつの母音（字）だけ「その他の母音（字）は使えない」が入った単語のみ（Oの場合、「Yoko Ono」）でできた5つのセクションから出来ている。これは悪名高いウリポ風[次の項目参照]の制限を思い出させる手法である（例えば、*Perec* の *nover La Disparition* では、「e」の字が排除されている）。*Eunoia* と同様の手法で詩を書く。「訳注・リポグラム（字忌み文）は、ある文字を含む語を全く用いない文・詩。」

80.1. Proliferating styles.

一九四七年、「ウリポ *Ouvroir de Littérature Potentielle*（潜在的文学の工房）」の創立メンバーであるレイモン・クノーが、同じひとつの物語を99通りに語った『文体練習』[邦訳あり]を出版した。そこで用いられた99の手法すべてがこのリストでとり上げるに値い

するが、ここで数え上げたり説明したりするよりは実際に『文体練習』を手にとっていたほうがよいだろう。ここでの目的にそって（目的という言葉があまりに目的論的に響かなければよいが）、始めに思いついた出来事、ムード、主題、描写、概念やもちろん物語を手がかりに、この実験リストにあげられた手法すべてを試すことも可能だ、というのに留めておこう。最終的に何のためかは〈影〉のみが知っていることであるし、もしかすると〈影〉もそれを知らないのかもしれない。

【訳注・ウリポ Oulipo はフランスの言語実験グループ。】

82. モジュール型詩

例：レイモン・クノーの「百兆の詩篇」。

83. 「読みへの応用、創作への再応用」

このリストの中の元テキストを使った実験手法を、既成の詩を読む手段として用いる。つまり、「創造的読解」のインタラクティブな道具として。エクステンションとして、「Deformative Criticism” (Jerome McGann と Lisa Samuel の用語)の手法でもって詩を研究する。例えば、一篇の詩をとり上げ、視覚的なレイアウトは壊さないように一つの品詞を除いてはすべて消去する。あるいは後ろから読む。あるいは順番を変える。あるいは翻訳する（このリストに上がった翻訳実験を使ってもよい）。翻って、これらの実験を自作の詩を書き換え、変形する方法として用いる。

84. 「変形」

“Meaning Eater”エンジンを用いて、詩のテキストを変形する。

85. 「サウンド・エディター」

サウンド・エディターを使って、詩のサウンド・ファイルをかきまぜ、音を変えてみる。(See PennSound Deformance page, under constuction.)

86. 「知らない詩」

あなたが知らないすべて（あるいはいくつか）の事柄でできた詩。

87. 「実験の考案」

さらに新しい実験を考案する。

* 注意書き

詩は散文形式であつてもよい！ 上記の実験から得られた材料をまとめて、書き直し、組み直し、コラージュし、継ぎ接ぎして、どんどんと長い詩にしてゆくこと！ チャールズ・バーンスタイン、Poets' Ludicrously Aimless Yearning (PLAY) 編 (C) 1996-2006。

アテンション・リーダー

指導読者の監督の元で適切に投与すること。個々の実験は使用方法によつては怪我や失敗のもとになる場合があるので注意。これらの製法による直接的・間接的結果で得られた利益は言語全般に還元されるものとする。管理者「および訳者・日本語サイト『言語実験工房』は教育機関および個人の創作プロジェクトでこのリストを用いたことに起因する損害の責任は一切負わない。2006年改定版。

フィンランド語版 <http://www.nokturno.org/tui-savu/index.php?sivu=6>

このリストは一九七〇年代に Bernadette Mayer が作ったリストからインスピレーションを受けている。さらなる実験(と日記のアイデア)については、

http://writing.upenn.edu/library/Mayer-Bernadette_Experiments.html